

株式会社そごう・西武の株式譲渡に関するご報告

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

弊社傘下の事業会社である株式会社そごう・西武（以下、そごう・西武）につきまして、本年11月11日に弊社はフォートレス・インベストメント・グループ（以下、フォートレス社）との間で株式譲渡契約を正式に交わしました。

弊社は、2006年にそごう・西武の前身であるミレニアムリテイリングを完全子会社化し、経営統合を果たして以来、ともに百貨店事業の再構築に力を尽くしてまいりました。しかしながら、社会構造の急速な変化、コロナ禍等による消費行動の変容等、消費市場を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。今後の市場動向を展望し、また弊社グループの成長戦略にかんがみる時、そごう・西武の事業再構築に関してグループが果たせる役割は、より限定的なものとならざるを得ず、そごう・西武にとって弊社がベストオーナーとはいえないと判断するにいたりました。16年にわたり、ともにグループ事業の発展に取り組んできたことを思えば、まことに断腸の思いがいたします。

そごう・西武は、すぐれた企画力、情報発信力を培い、多彩な海外有力ブランドとともに百貨店としての信頼感を築いてまいりました。また、富裕層をはじめとした多くのお客様とのすぐれた関係性、そして地域社会の皆様が集う場所に立地する「館」が有する有形無形の価値は、今後の社会生活においても重要性を有しています。これらの強みを活かした地域社会の活性化や持続可能な社会の実現に向け、そごう・西武の革新的な役割には期待すべきものがあると考えます。しかし、これらの強みを最大限に發揮していくには、新たな観点からの資本投下を含め、なお一段の事業構造改革が必要です。このような観点から、外部専門家の知見や情報等も活用しながら、弊社では精査を重ね、そごう・西武のポテンシャルを十分に引き出せるベストオーナーについて検討を重ねてまいりました。その結果、今般フォートレス社を選定するにいたりました。

なお、今回の株式譲渡を通じて、弊社グループのコンビニエンスストア事業および食品領域を中心とした成長戦略は、より鮮明になるものと考えます。弊社はグループシナジーをよりいっそう強化し、グループの持てる経営資源の有効活用と成長に向けた投資の集中化を加速することで、今後とも企業価値の最大化に力を注いでまいります。

以上